

●2013年 研究開発戦略説明会 質疑応答議事録

日 時 : 2013年4月3日(水) 15:00~16:00
場 所 : 株式会社富士通研究所 岡田記念ホール
説明者 : 株式会社富士通研究所 富田社長

質問者 A

- Q. プレゼン資料 P12 の旧骨太テーマでのキーワードが、新骨太領域になり表現が変わっている意味についてご説明をお願いします。
- A. ヒューマンセントリック・インテリジェント・ソサイエティ (以下 HCIS) というビジョンを 3 年前に作りました。これは、ヒューマン・セントリック・コンピューティング (HCC) とインテリジェント・ソサイエティ (IS) という 2 つの研究領域を合体する形でスタートしています。研究を進めていくと HCC という言葉の持つ範囲が広く、IS の定義と重複する部分が多くあることがわかりました。そこで研究所がイノベーションを起こす分野として、シンプルにわかりやすい切り口にするため、また、今までシーズ指向テーマとして行ってきた研究が発展し、新骨太領域の中にしっかり組み込まれていけるように、ユビキタスイノベーション、ソーシャルイノベーション、ICT イノベーションという領域を設定しました。

質問者 B

- Q. 成果とは具体的に何を指しているのでしょうか。学会での評価、もしくは製品への反映という面での評価でしょうか。
- A. 12 年度に発表に至ったものの中で、自信を持ってお話できる代表的なものを、今回成果として取り上げています。日本で 1,250 名、海外で 250 名、合計 1,500 名の研究者がおりますので、今回発表したもの以外にも多くの成果がでていますが、今回の取り上げたものは、その代表的なものということになります。今回お話している成果というのは、あくまで研究成果の発表をベースに考えておりますので、これが必ずしもすぐに製品化につながるというものではありません。発表時点で、製品化への考え方もお伝えしていますが、本日も展示の中で、皆様から製品化への時期についてご質問があれば、担当者が自分なりの考え方をお話すると思います。
- Q. 研究範囲が非常に広いので、すべてを自ら開発するのは難しいと思いますが、自ら開発していくものとオープンイノベーションの活用について、目標とする比率があれば教えてください。
- A. 比率とデジタルにいわれると非常に説明が難しいのですが、基本的にはすべてを外部に頼るということはありません。研究所が絡む以上は、何らかの形で技術を咀嚼して、事業部門などに受け渡すようにしています。今は遅れていても、いずれキャッチアップしていきたいという意思があるものについては、少し進んでいるところと組んでやっていくという選択肢がありますし、同じ内容を研究していてもアプローチが違う場合、両面から見たほうが面白いという判断があれば、共同で開発をするという考えもあります。必要によって外と組めばよいと考えていますので、あまり枠を決めて

は、おりません。ただ外部と組むにしても、自分たちの体力や咀嚼できる範囲を超えない形でやることが重要であるため、外部に出すボリュームは自ずと限られてくると
思います。

以上